Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 21第11号
2021年（令和三年） 6月18日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

6/3～6/9のNYMEX・WTI先物市場は、68.81～70.05ドルの範囲で推移した。

6月10日は、米国の金融緩和の継続見通しと堅調な米国消費者物価指数の発表で、反発した。7月限の終値は前日比0.33ドル高の70.29ドル。

週末11日は、世界的な経済回復加速化の期待感から、続伸した。国際エネルギー機関（IEA）は6月月報で、2022年末には石油需要はコロナ禍前の水準を完全に回復するとして、OPECプラスは段階的減産緩和に加えて追加的な増産が必要となるとの見方を示した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比6基増の365基。7月限の終値は前日比0.62ドル高の70.91ドル。

週明け14日は、引き続き、石油需要の回復への楽観的見方から、買いが先行したが、このところの高値水準から、利益確定売りが優勢となり、わずかに反落した。7月限の終値は前日比0.03ドル安の70.88ドル。

15日は、欧米を中心とするワクチン接種の進展を背景に、経済回復、石油需要回復への期待感から、大幅反発した。また、明日発表予定の米国石油在庫の減少予想も、値上がり要因となった。7月限の終値は1.24ドル高の72.12ドル。

16日は、米国エネルギー情報局（EIA）の米国石油在庫統計で、原油が前週比740万バレル減と市場予想を大きく上回る取り崩しとなったが、午後、連邦準備制度理事会（FRB）が金利緩和政策の解除時期の前倒しを示唆したことから、値上がり幅は大きく縮小、小幅な続伸に止まった。7月限の終値は前日比0.03ドル高の72.15ドル。

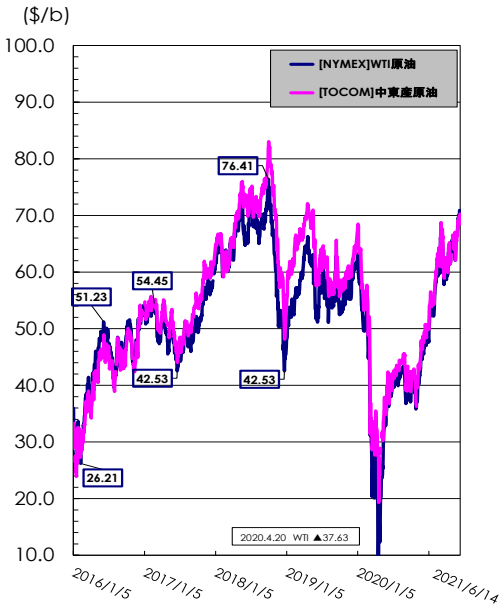
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）は、6月3日～9日の間69.40～71.00ドルの範囲で推移した。6月10日70.20ドル、11日70.80ドル、14日71.50ドル、15日71.70ドル、16日73.00ドルと推移した。

為替は6月3日～9日の間109.45～110.28円の範囲で推移した。6月10日109.65円、11日109.46円、14日109.81円、15日110.11円、16日110.16円で推移した。

財務省が6月16日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格は、45,429円/klで、前旬比1,025円高、ドル建て66.16ドルで前旬比1.30ドル高、為替レートは1ドル/109.17円。また、同日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、5月の原油輸入平均CIF価格は、44,807円/klで、前月比859円安、ドル建て65.45ドルで前月比0.81ドル安、為替レートは1ドル/108.84円。

そのような中で、6月14日時点の小売価格は、ガソリンが前週（6月7日）比1.6円の値上がり、軽油も同1.5円の値上がり、灯油は同17円の値上がり（18リットルベース）だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は28週連続の値上がりだった。この週（6月第3週）の原油コストは値上りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の引き上げとなった模様。

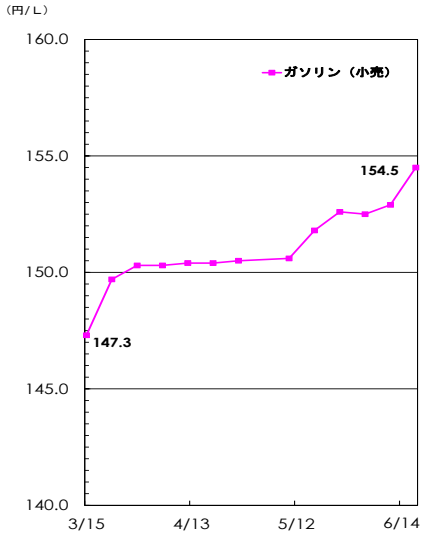
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	6/6 ～ 6/12	2,439	▲ 37	▲ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	63.4	▲ 1.0	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	6/12	10,797	▼ -902	▼ －
価格	中東産原油（TOCOM）	（$/bbl）	6/14	70.26	▲ 1.65	▲ 33.5
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	6/14	70.88	▲ 1.65	▲ 33.8
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	5月下旬	66.16	▲ 1.30	▲ 41.20
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	45,429	▲ 1,025	▲ 28,619
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	109.17	▼ -0.31	▼ -2.10
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	6/14	110.81	▼ -0.24	▼ -2.57



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/6 ～ 6/12	807	▼ -13	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	779	▼ -43	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	▼ –
	在庫		6/12	2,300	▲ 29	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	6/8 ～ 6/14	64.4	▲ 1.4	▲ 26.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/8 ～ 6/14	62.0	▲ 0.6	▲ 31.3
		(TOCOM/中部)	6/14	63.2	▲ 1.0	▲ 26.2
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/14	154.5	▲ 1.6	▲ 24.3

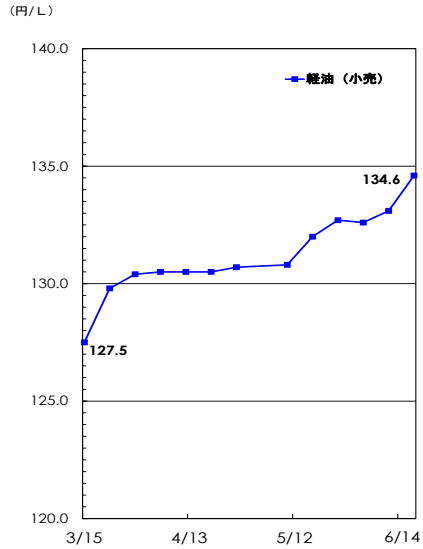
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

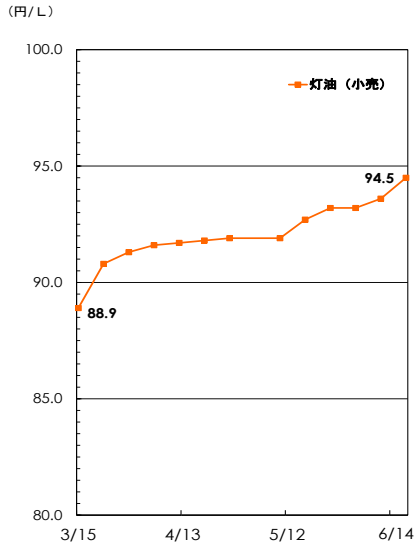
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/6 ～ 6/12	622	▲ 69	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	600	▲ 105	▼ –
	輸出		〃	99	▲ 93	▲ –
	在庫		6/12	1,888	▼ -78	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	6/8 ～ 6/14	66.3	▲ 1.5	▲ 26.0
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/8 ～ 6/14	67.3	▲ 0.4	▲ 22.0
		(TOCOM/中部)	6/14	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/14	134.6	▲ 1.5	▲ 23.7

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/6 ～ 6/12	99	▼ -43	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	66	▼ -68	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		6/12	1,604	▲ 33	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	6/8 ～ 6/14	66.0	▲ 1.3	▲ 26.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/8 ～ 6/14	61.1	▲ 0.8	▲ 24.0
		(TOCOM/中部)	6/14	64.5	▲ 0.5	▲ 27.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/14	94.5	▲ 0.9	▲ 16.6



■ 関連情報

1　海外/原油

6月16日のNYMEXのWTI先物原油は小幅ながら続伸した。米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油は前週比740万バレル減と市場予想(330万バレル減)を大きく上回る取り崩しとなり、4週連続の減少となった。また、欧米を中心とする経済回復の加速化も上昇要因となった。しかし、午後、連邦準備制度理事会(FRB)が金利緩和政策の解除時期について2024年以降から2023年への前倒しを示唆したことから、上げ幅は徐々に縮小した。7月限の終値は前日比0.03ドル高の72.15ドル、8月限の終値は0.09ドル高の71.95ドル。

EIAによると、6月14日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.4セント値上がりの1ガロン3.069ドル(89.8円/㍑)、ディーゼルは同1.2セント値上がりの3.286ドル(96.1円/㍑)となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは7週連続の値上がりとなった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2021年6月6日～6月12日に休止したトッパー能力は75.0万バレル/日で、前週に対して7.1万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は243.9万klと、前週に比べ3.7万kl増加。前年に対しては35.3万klの増加。トッパー稼働率は63.4%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては10.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.6%減、ジェット/5.9%減、灯油/30.5%減、軽油/12.5%増、A重油/14.1%増、C重油/40.4%減。今週のC重油の輸入は2.1万kl(前週比2.1万kl増)。軽油の輸出は9.9万kl(前週比9.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は77.9万kl(対前週5.3%減)と2週振りで減少した。ジェット6.1万kl(対前週24.7%減)、灯油6.6万kl(対前週50.8%減)、軽油60.0万kl(対前週21.3%増)、A重油19.0万kl(対前週36.6%増)、C重油20.0万kl(対前週25.7%減)。

(単位：千KL)

	今週 (6/6 ~ 6/12)	前週 (5/30 ~ 6/5)	前週比	
ガソリン	779	822	▼ -43	(-5%)
ジェット燃料	61	80	▼ -19	(-24%)
灯油	66	134	▼ -68	(-51%)
軽油	600	495	▲ 105	(21%)
A重油	190	139	▲ 51	(37%)
C重油	200	269	▼ -69	(-26%)
合　計	1,896	1,939	▼ -43	(-2%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

6月12日時点の在庫は、軽油、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは230.0万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては65.0万kl多い。

灯油は160.4万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては6.6万kl少ない。

軽油は188.8万kl、前週差7.8万kl減。前年に対しては57.7万kl多い。

A重油は78.1万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては1.7万kl多い。

C重油は192.8万kl、前週差6.3万kl減。前年に対しては1.5万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (6/12)	前週 (6/5)	前週比	
ガソリン	2,300	2,271	▲ 29	(1%)
ジェット燃料	749	731	▲ 18	(2%)
灯油	1,604	1,571	▲ 33	(2%)
軽油	1,888	1,966	▼ -78	(-4%)
A重油	781	780	▲ 1	(0%)
C重油	1,928	1,991	▼ -63	(-3%)
合　計	9,250	9,310	▼ -60	(-0.6%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

6月8日～14日の指標原油価格は前週（6月1日～7日）比で値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週（6/17～6/23）の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比0.5円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

6月8日～14日の製品スポット市況は、6月1日～7日平均と比べ、全ての油種、全ての取引で、値上がりした。

直近（6/8～6/14）の陸上スポット価格平均値（千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格）は、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。直近週（6/8～6/14）において、ガソリンは117～118円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油は65～66円台で値上がり後ほぼ横ばい、軽油は64～66円台で大きく値上がり後横ばいで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（6/8～6/14）に、前週比で、ガソリンは2.0円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間（6/8～6/14）に、ガソリンは118～120円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、灯油は62～63円台で値上がり後横ばい、軽油は66～67円台で大きく値上がり後横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。先物価格は、同期間（6/8～6/14）に、ガソリン114～116円台で大きく値上がり、灯油60～61円台で大きく値上がり、軽油66～67円台で値上がり後わずかに値下がりして推移した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(6/8 ~ 6/14)	前週　(6/1 ~ 6/7)	前週比
スポット価格	レギュラー	64.4	63.0	▲ 1.4
	灯油	66.0	64.7	▲ 1.3
	軽油	66.3	64.8	▲ 1.5

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(6/8 ~ 6/14)	前週　(6/1 ~ 6/7)	前週比
先物価格	レギュラー	62.0	61.4	▲ 0.6
	灯油	61.1	60.3	▲ 0.8
	軽油	67.3	66.9	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値　（6/8～6/14実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 1.0
灯油	▲ 1.3	▲ 0.8	▲ 1.1
軽油	▲ 1.5	▲ 0.4	▲ 0.9
A重油	▲ 1.6		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

6月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週（6月7日）比1.6円高の154.5円、軽油も同1.5円高の134.6円、灯油は18㍑ベースで同17円高の1,701円（1㍑ベースでは同0.9円高の94.5円）。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は28週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは44都道府県、横ばいは1県、値下がりは2県だった。全国最安値は148.0円の徳島県（同1.7円高）、その次に安かったのは149.8円の埼玉県（前週比2.6円高）、他方、最高値は162.7円の長崎県（同0.2円安）と鹿児島県（同0.6高）だった。最も値上がりしたのは同4.0円高の宮城県（151.0円）で、横ばいは岡山県、最も値下がりしたのは同0.4円安の愛知県（151.5円）だった。

今週（6月8日～14日）は、指標原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週（6月17日～23日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の値上げとなった模様。次回調査時（6月21日）のガソリンの小売価格は小幅な値上がりが予想される。

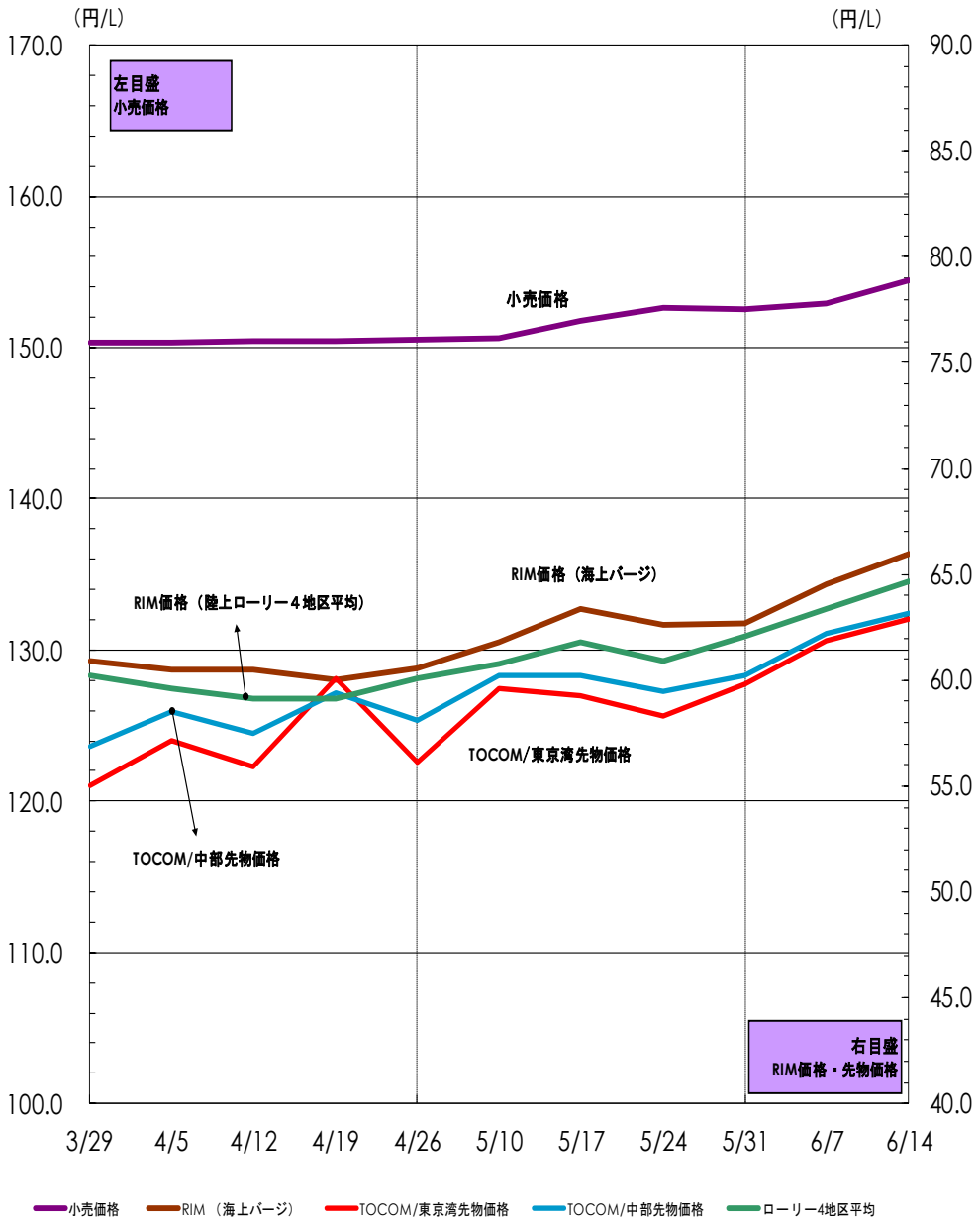
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(6/14)	前週　(6/7)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	154.5	152.9	▲ 1.6	08/8/4	185.1
	灯油	94.5	93.6	▲ 0.9	08/8/11	132.1
	軽油	134.6	133.1	▲ 1.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/3/29　～　2021/6/14)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2021第12号）の公表は、6/25（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和2年3月末現在）は、8月26日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。